

授業概要

ポストコロナの日本および世界では、経済、企業経営、地球環境、社会、産業の面で大きな変革が進展しており、新しい経済社会の姿が構築されつつあります。この演習では、主に経済、企業経営、地球環境、産業動向、社会生活などの分野において現在進行しているトレンドを理解することによって、皆さんが社会人になるうえでの基礎的な知識を身に着けることを目的として指導します。各回のゼミでは、ゼミ生全員がテキストの指定箇所を事前に読んできて、事前に割り振られた担当の学生が報告資料を作成したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきたいと思っています。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。なお、秋に開催される大学祭では、ゼミ生による研究発表会を実施する予定です。

授業計画

|        |                   |        |                  |
|--------|-------------------|--------|------------------|
| 第 1 回  | この演習で学ぶこと         | 第 16 回 | 産業動向 ―国内半導体産業―   |
| 第 2 回  | 積極投資と創造性で経済の拡大を   | 第 17 回 | 産業動向 ―量子コンピューター― |
| 第 3 回  | 景気回復の持続力          | 第 18 回 | 産業動向 ―ステーブルコイン―  |
| 第 4 回  | 財政収支の動向           | 第 19 回 | 産業動向 ―先端医療技術―    |
| 第 5 回  | 外国人労働者をいかに獲得するか   | 第 20 回 | 産業動向 ―物流効率化―     |
| 第 6 回  | 喫緊の対応が求められる脱炭素化   | 第 21 回 | 産業動向 ―共同配送―      |
| 第 7 回  | 訪日外国人旅行者の動向       | 第 22 回 | 産業動向 ―日本版ライドシェア― |
| 第 8 回  | 企業経営 ―イノベーション―    | 第 23 回 | 産業動向 ―循環経済―      |
| 第 9 回  | 企業経営 ―ファミリービジネス―  | 第 24 回 | 地球環境 ―水素エネルギー―   |
| 第 10 回 | 企業経営 ―事業継承―       | 第 25 回 | 地球環境 ―省エネ住宅―     |
| 第 11 回 | 企業経営 ―スキルベース採用―   | 第 26 回 | 地球環境 ―グリーンウォッシュ― |
| 第 12 回 | 企業経営 ―デジタルインフラ戦略― | 第 27 回 | 地球環境 ―生物多様性―     |
| 第 13 回 | 企業経営 ―ウェルビーイング経営― | 第 28 回 | 地球環境 ―環境配慮型農業―   |
| 第 14 回 | 企業経営 ―スタートアップ支援―  | 第 29 回 | 地球環境 ―太陽フレア―     |
| 第 15 回 | 春期のまとめ            | 第 30 回 | 秋期のまとめ           |
|        |                   | 第 31 回 | 課題レポートの提出        |

到達目標

- 日本および世界経済、産業動向、企業経営、地球環境、社会生活などの分野における基本的な知識や考え方を理解し、それらに基づき課題や改善策などを指摘することができる。
- 報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施することができる。
- 各回のテーマについて、有意義な議論を展開することができる。

履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することが基本的な履修条件です。

予習・復習

テキストの指定された箇所を事前に読んで理解するとともに、各回のゼミ終了後に授業内容を復習することを求めます。

評価方法

担当箇所の発表 40%、各回のテーマに関する意見表明 30%、課題レポート 30%。

テキスト

- ・教科書名：『2025 年 日本はこうなる』
- ・著 者 名：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（編）
- ・出版社名：東洋経済新報社
- ・出 版 年：2024 年 11 月 ISBN：978-4-492-39677-3 ￥2,000+税

授業概要

ヒト、モノ、カネ、ジョウハウ等のすべてが地球単位で動く時代の中で、これからは「地球人」として物事を考えていく必要性が重要となっていることについて、理解を深められるよう演習を行うことを目的とする。また、凄まじい勢いで様々な技術革新や新たな社会の仕組みが次々と構築される中、あらゆるビジネスは最終的には人間の幸福に寄与することが重要であることについても、演習を通して理解を深められるよう指導する。さらに、政府は「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2024 年改訂版」を作成、公表しているが、今後具体的にどのようなイノベーションが加速していくのかについても理解を深め、積極的なグループワークやディスカッションなどを通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など、実社会で求められる人材に必要な各種スキルの習得の向上を目指し、指導する。

授業計画

|        |                       |        |                        |
|--------|-----------------------|--------|------------------------|
| 第 1 回  | プラネタリーヘルス（地球の健康）      | 第 16 回 | 新しい資本主義のグランドデザイン       |
| 第 2 回  | 人間とは？「地球人」とは？         | 第 17 回 | 加速する経済構造改革             |
| 第 3 回  | 人類の歴史－戦争や紛争の歴史        | 第 18 回 | AI によるイノベーションの加速       |
| 第 4 回  | 人類の歴史－産業革命            | 第 19 回 | DX 国家戦略                |
| 第 5 回  | 宇宙、自然の驚異と人間の生活        | 第 20 回 | 循環経済（サーキュラー・エコノミー）への移行 |
| 第 6 回  | 環境破壊、生物多様性            | 第 21 回 | 食料安全保障・スマート農業          |
| 第 7 回  | 健康の定義、平均寿命、健康寿命       | 第 22 回 | 脱炭素社会                  |
| 第 8 回  | 労働することの意味、働き方改革       | 第 23 回 | 新エネルギー・代替エネルギー革命       |
| 第 9 回  | タスク・シフト／シェア           | 第 24 回 | 強靱（レジリエンス）な社会再構築       |
| 第 10 回 | ワーク・ライフ・バランス          | 第 25 回 | デジタル田園都市国家             |
| 第 11 回 | ディーセント・ワーク            | 第 26 回 | インバウンドの促進、観光立国         |
| 第 12 回 | 生活の質・生命の質（QOL）        | 第 27 回 | オーバーツーリズム、地方再生         |
| 第 13 回 | 自立・予防の視点の重要性          | 第 28 回 | メディカル・ツーリズム、デス・ツーリズム   |
| 第 14 回 | ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC） | 第 29 回 | 不老不死ビジネス               |
| 第 15 回 | グローバル・ヘルス             | 第 30 回 | 人間の幸福の条件               |
|        |                       | 第 31 回 | 試験                     |

到達目標

- ・客観的に物事をとらえ、分析することができる。
- ・自分の考えを上手く伝えることができる。
- ・新しい資本主義の構築にはどのような視点が重要であるかについて説明できる。
- ・人間の幸福の条件について、論点を整理し、説明できる。
- ・新しい考え方やビジネスについて理解することができる。

履修上の注意

変化の激しい時代だからこそ、難題にも積極的に取り組み、新しい社会を切り開いていく当事者となるという自覚をもって、楽しみながら果敢に立ち向かっていく勇気や好奇心旺盛な学生の皆さんを歓迎する。

予習復習

毎回の単元前に予習 1 時間程度、演習後に復習 1 時間程度を要する。

評価方法

試験（最終レポート含む）60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

教科書名：ニュースがわかる世界地図  
著者名：なるほど知図帳 世界  
出版社名：昭文社  
出版年：2024 年（ISBN：978-4398200815） 2090 円

授業概要

3年次の専門演習で企業の経済活動に関する情報に関連して『有価証券報告書』などを使用した演習を予定しているため、上場している企業の経済活動や情報を知ることが目的とした演習である。そこで、まず、企業の経済活動に影響を与えているSDGsを理解し、世界が抱えている諸問題を知ることから始める。そのうえで、いくつかの業界の全体像を概観し、そこでの企業や商製品などをレポートしてもらう。演習は、ゼミ生が何らかの課題についてレジュメを作成し、プレゼンを行う形式を予定している。また、就職活動に備えた準備段階では、自らが積極的に企業のことを知る姿勢が大切であるため、その姿勢が養われるように指導する。

なお、下記の授業計画の第20回までは2024年度の内容である。そのあとはゼミ生が決定するが、例示しておく。当然、2025年度は受講生の興味によって業界や企業は変わることになる。

授業計画

|      |                    |      |                        |
|------|--------------------|------|------------------------|
| 第1回  | SDGs（持続可能な開発目標）の意義 | 第16回 | 秋期の課題ガイダンスと業界決定        |
| 第2回  | 環境問題の理解            | 第17回 | 決定した業界の全体像             |
| 第3回  | 環境問題の事例            | 第18回 | 帝国ホテル・共立メンテナンス（第1チーム）  |
| 第4回  | 経済問題の理解            | 第19回 | 豊田自動織機・ニデック（第2チーム）     |
| 第5回  | 経済問題の事例            | 第20回 | ウエダ・ニュース・クックパッド（第3チーム） |
| 第6回  | 社会問題の理解            | 第21回 | 食品（製菓・製パン）業界の概要        |
| 第7回  | 社会問題の事例            | 第22回 | カルビー・ブルボン（第1チーム）       |
| 第8回  | 17の目標の理解①（目標1～4）   | 第23回 | 江崎グリコ・山崎製パン（第2チーム）     |
| 第9回  | 17の目標の理解②（目標5～8）   | 第24回 | 明治ホールディングス・森永製菓（第3チーム） |
| 第10回 | 17の目標の理解③（目標9～12）  | 第25回 | 金融業界の全体像               |
| 第11回 | 17の目標の理解④（目標13～17） | 第26回 | メガバンク・地方銀行・信用金庫・保険     |
| 第12回 | 各チームの選択企業の取組み調べ    | 第27回 | 信用金庫の事例と事業内容（第1チーム）    |
| 第13回 | 2024年度：ユニクロ、資生堂    | 第28回 | 信用金庫の事例と事業内容（第2チーム）    |
| 第14回 | 木質バイオマス利用協会        | 第29回 | 信用金庫の事例と事業内容（第3チーム）    |
| 第15回 | 各チームのプレゼン          | 第30回 | 3年次のインターンシップに向けて       |
| 第16回 | 第12回～14回のまとめレポート提出 | 第31回 | 秋期に調べた企業のレポート提出        |

また、回数や内容は目安であり、進度により適宜変更・調整する。また、人数にもよる。

到達目標

- ・質疑応答にこたえられる責任をもったレジュメ・レポートの作成と報告ができる。
- ・調べた業界の全体像を知るとともに、就職先として希望する業界や企業を発見することができる。

履修上の注意

- ・登録前に説明会等で必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・履修指導を含め、通常の演習時間以外の活動（例えば、指定するキャリアセンター主催の行事）などを積極的に指示する。
- ・全員参加の学外授業をする場合がある（他学年・他ゼミと合同のこともある）。

予習復習

- ・予習：報告レジュメの作成。
- ・復習：課題レポートの作成。

評価方法

- ・グループワーク（共同作業）における積極的な参加姿勢やレジュメ作成といった平常点（50%程度）および提出された課題（50%程度）を目安に評価する。

テキスト

- ・特に指定しない。
- ・参考文献：『会社四季報 業界地図』（2025年版）、東洋経済新報社（ISBN：9784492973349）。

授業概要

佐藤正勝ゼミは、4 年間で、次の5つの力を養成することを目的としています。その目的は、就職戦線で勝ち組になること、そして、社会に出てからも、仕事を上手に処理できることです。

5つの力とは、①人と楽しく正確に話ができる力、②社会人基礎力、③自分を知る自己理解力、④問題提起・思考・分析・解決力、⑤社会の現実を知る力、です。

ゼミでは、ゼミ生自身が、自ら考え、自ら練習し、自ら実行するように、指導します。

就職戦線がどんどん低学年に降りてきています。具体的には、3 年次にインターンシップ等の就活で、内々定ができるように、基礎演習(2 年次)後半では、インターンシップに関する諸活動を実践的に、指導します。

授業計画

|        |                    |        |                    |
|--------|--------------------|--------|--------------------|
| 第 1 回  | ガイダンス（自己紹介、授業進め方等） | 第 16 回 | ガイダンス              |
| 第 2 回  | 人と楽しく話ができる(中級編①)   | 第 17 回 | アイスブレーキング          |
| 第 3 回  | 人と楽しく話ができる(中級編②)   | 第 18 回 | 図書館の利用の仕方          |
| 第 4 回  | 人と楽しく話ができる(中級編③)   | 第 19 回 | マンダラ・チャートの書き方      |
| 第 5 回  | 自分を知る(中級編①)        | 第 20 回 | インターンシップとは         |
| 第 6 回  | 自分を知る(中級編②)        | 第 21 回 | 自分史を作成する           |
| 第 7 回  | 社会人基礎力(中級編①)       | 第 22 回 | 自分の強み・弱みを把握する      |
| 第 8 回  | 社会人基礎力(中級編②)       | 第 23 回 | 企業研究のやり方           |
| 第 9 回  | 問題提起・思考・分析・解決力中級編① | 第 24 回 | 志望動機の書き方           |
| 第 10 回 | 問題提起・思考・分析・解決力中級編② | 第 25 回 | 履歴書、エントリーシートの書き方   |
| 第 11 回 | 問題提起・思考・分析・解決力中級編③ | 第 26 回 | 面接で聞かれることとは？       |
| 第 12 回 | 社会の現実を知る中級編①       | 第 27 回 | グループディスカッションのやり方   |
| 第 13 回 | 社会の現実を知る中級編②       | 第 28 回 | 会社へのメールの仕方、お礼状の書き方 |
| 第 14 回 | 社会の現実を知る中級編③       | 第 29 回 | S P I とは？社会常識テストとは |
| 第 15 回 | まとめ                | 第 30 回 | まとめ                |
|        |                    | 第 31 回 | 期末レポートの提出          |

到達目標

社会人としての資質・能力を養成するために、次の人材養成の内容を到達目標とします。

- 〔(1)〕 人と楽しく正確に話ができる。就職面接や職場での意思疎通に必須の力です。
  - 〔(2)〕 社会人基礎力を身に付けることができる。言語能力、数的計算能力、一般常識を学習します。
  - 〔(3)〕 自分というものを知ることができる。就職では、自分の強みをアピールすると採用されます。
  - 〔(4)〕 問題を提起し、思考し、分析し、解決することができる。社会人はこの力を発揮して仕事をします。
  - 〔(5)〕 社会の現実を知ることができる。社会になって、こんなことは知らなかったでは、済みません。
- ゼミの後半には、インターンシップのための実践練習を指導します。

履修上の注意

授業への出席、宿題の提出期限について、その遵守は、とても重要です。なぜなら、社会人になったら、会社を欠勤したり、上司の指示に遅れて仕事をする事など、あってはいけないからです。特に、1 年生ではなく、2 年生になりましたので、自分の頭で自ら考え、自ら実行することを意識して下さい。

予習・復習

予習は、教員作成の教材を予習します。特に、宿題を毎回出すので、それをしっかりと実行することが必要です。なぜなら、予習・宿題を実施すること自体が、次のゼミ授業をよく理解することに繋がり、したがって、前述5つの項目の実力が向上することにつながるからです。90 分 1 回の授業について、自宅等での予習復習(その内容は、[理解・訓練・実行]ことです) だけのために合計 4 時間程度を充てることが、必要です。

評価方法

期末レポートへの配点が70%、宿題提出・発表の内容等が30%です。

テキスト

- ・教科書名：なし（授業で独自資料を配布します）

## 授業概要

昨今の社会においてキャリアは実に多様化している。本演習では、そのようなキャリアの現状と展望について学び、社会における「働くこと」の意味を理解することを目標として指導する。そして、その上で、受講者一人一人がこれまでの自分をふり振り返り自分の適性を見つめ直すことで自己理解を深め、自分のキャリアについて考える端緒となるような演習を展開する。また、グループワークを通して、自分とは違った見方・考え方に触れ、視野を広げることで、自身のこれからの生き方について再考を促すような内容とする。

## 授業計画

|        |                              |        |                               |
|--------|------------------------------|--------|-------------------------------|
| 第 1 回  | <b>第Ⅰ章 社会人の心構え</b><br>心構え    | 第 16 回 | 慶事と弔事                         |
| 第 2 回  | 基本行動①明るく誠実である                | 第 17 回 | 物の名称・数え方                      |
| 第 3 回  | 基本行動②素直で協調性がある               | 第 18 回 | カタカナ用語                        |
| 第 4 回  | 基本行動③忍耐力と適切な行動               | 第 19 回 | 第Ⅲ章 まとめ                       |
| 第 5 回  | 好印象・好感度①あいさつと所作              | 第 20 回 | <b>第Ⅳ章 対人技能</b><br>コミュニケーション① |
| 第 6 回  | 好印象・好感度②清潔感ある身だしなみ           | 第 21 回 | コミュニケーション②                    |
| 第 7 回  | 第Ⅰ章 まとめ                      | 第 22 回 | 接遇の基本①                        |
| 第 8 回  | <b>第Ⅱ章 専門知識</b><br>サービスの意義   | 第 23 回 | 接遇の基本②                        |
| 第 9 回  | サービスの機能①                     | 第 24 回 | ビジネス・マナー①                     |
| 第 10 回 | サービスの機能②                     | 第 25 回 | ビジネス・マナー②                     |
| 第 11 回 | サービスの種類①                     | 第 26 回 | ビジネス・マナー③                     |
| 第 12 回 | サービスの種類②                     | 第 27 回 | 第Ⅳ章 まとめ                       |
| 第 13 回 | 従業知識                         | 第 28 回 | 学生によるプレゼンテーション                |
| 第 14 回 | 第Ⅱ章 まとめ                      | 第 29 回 | 学生によるプレゼンテーション                |
| 第 15 回 | <b>第Ⅲ章 一般知識</b><br>ことわざ・慣用表現 | 第 30 回 | 学生によるプレゼンテーション                |
|        |                              | 第 31 回 | 学期末レポート                       |

## 到達目標

本演習では、上記概要を充たす、ビジネス系検定の「サービス接遇検定 3・2・準 1 級」取得のテキストや 3 級の過去問題を使う。実際の過去問題を用いて学生が答えを出した後に解答・解説を行い、各問題のキーワードの理解を深めることができる。これにより、就職のために、学生時代に修得しておく必要のある、正しい言葉遣いや態度等のビジネスマナーが理解できる。

## 履修上の注意

学生と講師によるディスカッションを本演習では大切にしたいと考えている。

## 予習・復習

★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。

★関心のある企業の「経営戦略」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。

## 評価方法

1】学期末レポート（50%） 2】プレゼンテーション（30%） 3】講義への貢献度（20%）

## テキスト

・教科書名：『ユーキャンのサービス接遇検定 3 級・2 級・準 1 級合格テキスト&問題集』

・著 者 名：ユーキャンサービス接遇検定試験研究会

・出版社名：ユーキャン自由国民社

・出 版 年（ISBN）：2020（978—4—426—61214—6）

また、教員オリジナルの資料も使用する。

授業概要

本演習は、会計学の基礎を学習することを目的として指導する。具体的な学習内容は、複式簿記の基本原則、企業会計基準の考え方や用語解説などである。基本的には専門書の輪読する方法です進めるが、また新聞や雑誌などを通じて会計の基礎学力を強化も行う。後半では、専門演習に備え、レジュメの書き方や発表の仕方の取得も合わせて進める。日商簿記検定試験 3 級レベルの内容を含めて進めるので自主的な学習も重要になる。

授業計画

|        |             |        |                |
|--------|-------------|--------|----------------|
| 第 1 回  | 会計学の意義      | 第 16 回 | 純資産の測定と認識 1    |
| 第 2 回  | 複式簿記の原理 1   | 第 17 回 | 純資産の測定と認識 2    |
| 第 3 回  | 複式簿記の原理 2   | 第 18 回 | 財務諸表の作成と解説 1   |
| 第 4 回  | 財務諸表の読み方 1  | 第 19 回 | 財務諸表の作成と解説 2   |
| 第 5 回  | 財務諸表の読み方 2  | 第 20 回 | 財務諸表の作成と解説 3   |
| 第 6 回  | 資産の測定と認識 1  | 第 21 回 | レジュメ作成と発表の仕方 1 |
| 第 7 回  | 資産の測定と認識 2  | 第 22 回 | レジュメ作成と発表の仕方 2 |
| 第 8 回  | 資産の測定と認識 3  | 第 23 回 | レジュメ作成と発表の仕方 3 |
| 第 9 回  | 負債の測定と認識 1  | 第 24 回 | 各自のテーマの報告と討論 1 |
| 第 10 回 | 負債の測定と認識 2  | 第 25 回 | 各自のテーマの報告と討論 2 |
| 第 11 回 | 収益の測定と認識 1  | 第 26 回 | 各自のテーマの報告と討論 3 |
| 第 12 回 | 収益の測定と認識 2  | 第 27 回 | 各自のテーマの報告と討論 4 |
| 第 13 回 | 費用の測定と認識 1  | 第 28 回 | 各自のテーマの報告と討論 5 |
| 第 14 回 | 費用の測定と認識 2  | 第 29 回 | 各自のテーマの報告と討論 6 |
| 第 15 回 | 春期のまとめ・中間試験 | 第 30 回 | 秋期のまとめ         |
|        |             | 第 31 回 | 試験             |

到達目標

- ・簿記知識は日商簿記 3 級以上の水準に引き上げることができる。日商簿記検定 3 級以上の合格を目指す。
- ・発表レジュメを適切に作成することができる。
- ・発表能力を向上させることができる。

履修上の注意

- ・毎回必ず出席すること。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論して欲しい。
- ・就職試験に関する指導（ニュース検定試験などの実施）を行う。

予習・復習

- ・毎回の学習テーマについて予習及び復習をして欲しい。
- ・各期 3 回以上のレポートの提出を求める。

評価方法

レジュメの作成と発表（40%）、課題レポート（40%）、ゼミでの積極性（20%）などを総合的に評価する。

テキスト

- ・必要に応じて文献および図書を紹介する。

授業概要

現代社会には国内外にさまざまな解決すべき課題がある。その課題に対して、教養演習Ⅰ・Ⅱでの知見（学び）を活用し、定量的なデータの分析や定性的な観察・考察を通じて、社会合理的な課題解決策をプレゼンテーションやレポートという形で提示していくプロセスについて指導する。取り上げる課題の例には、▽シャッター通り対策▽高齢ドライバーの事故対策▽鉄道・バスの長期的な輸送需要減少▽新幹線網の拡充▽オーバートーリズム対策▽人流・物流産業での人手不足▽大量の情報をシャワーのように浴び続ける社会問題などがある。

このプロセスでは、経済学や経営学のコアだけでなく、大学生としての総合的な学び・教養が必要である。これが「社会人基礎力の涵養」につながる。この演習ではそれらを「学ぶは楽しい」のモットーの下で培う。また、この演習では、専門演習と縦断的に埼玉高速鉄道との産学連携プロジェクトも取り組む。

授業計画

|        |                      |        |                      |
|--------|----------------------|--------|----------------------|
| 第 1 回  | ガイダンス                | 第 16 回 | ガイダンスと春期のふりかえり       |
| 第 2 回  | 旅客交通・貨物交通（物流）の特性     | 第 17 回 | 情報通信技術のさらなる進化        |
| 第 3 回  | 交通事業の経営形態            | 第 18 回 | まちづくりの現状（人口減少社会）(1)  |
| 第 4 回  | 交通事業の現状を理解する(1) 幹線鉄道 | 第 19 回 | まちづくりの現状（人口減少社会）(2)  |
| 第 5 回  | 交通事業の現状を理解する(2) 都市鉄道 | 第 20 回 | まちづくりの現状（人口減少社会）(3)  |
| 第 6 回  | 交通事業の現状を理解する(3) 国内交通 | 第 21 回 | まちづくりの現状（人口減少社会）(4)  |
| 第 7 回  | 国内観光の現状を理解する(1)      | 第 22 回 | まちづくりと観光(1)          |
| 第 8 回  | 国内観光の現状を理解する(2)      | 第 23 回 | まちづくりと観光(2)          |
| 第 9 回  | 国内観光の現状を理解する(3)      | 第 24 回 | 埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(6)  |
| 第 10 回 | 埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(1)  | 第 25 回 | 埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(7)  |
| 第 11 回 | 埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(2)  | 第 26 回 | 埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(8)  |
| 第 12 回 | 埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(3)  | 第 27 回 | 埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(9)  |
| 第 13 回 | 埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(4)  | 第 28 回 | ICT を活かした社会的課題の解決(1) |
| 第 14 回 | 埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(5)  | 第 29 回 | ICT を活かした社会的課題の解決(2) |
| 第 15 回 | ふりかえりと秋期の計画確認        | 第 30 回 | ICT を活かした社会的課題の解決(3) |
|        |                      | 第 31 回 | ふりかえりと専門演習への展望       |

到達目標

- (1) 交通を中心に観光やまちづくり、情報通信技術に関して、自ら資料などを収集し、意見交換、発表できる
- (2) 埼玉高速鉄道との産学連携プロジェクトに取り組むことで、「社会人基礎力」の応用レベルを涵養することができる。

履修上の注意

- (1) 能動的な演習形式であるため、履修生各自の“やる気”が最も問われる
- (2) 埼玉高速鉄道との産学連携プロジェクト含む PBL（Project/Process Based Learning）を基本とする
- (3) 原則として、ノートパソコンを持参する（毎回とは限らない、事前に告知する）
- (4) 演習時間割以外の時間に活動し、その際に交通費など費用が発生することがある
- (5) 履修生どうしの意見交換（ディスカッション）を重視する
- (6) やむを得ない事由で欠席・遅参する場合は、必ず演習開始前までに連絡する（無連絡欠席を厳禁する）
- (7) 休日を含む演習時間外での学習やさまざまな作業が想定される
- (8) 基礎演習では、大いに「失敗」してほしい。ただし、「同じ失敗」は許されない
- (9) 履修生数や連携プロジェクトの進捗などにより、上記の授業計画を変更することがある

予習・復習

自分自身の興味・関心のあるところをさらに調べ、自分の考え、問題解決手法の提案などを表明できるよう、復習することが、次回への準備につながっていく（復習・予習 90 分）。

評価方法

①発表の準備状況 35%、②ディスカッションへの参加状況 35%、③論理的な意見表明 30%、の 3 点で評価する。ただし、成績評価には、出席ポイント 10.Opt 以上が必要条件である。

テキスト

必携するテキストを指定しない。ただし、テーマや必要に応じて演習中に紹介する。

授業概要

「経営戦略と論理的思考」がテーマの経営学領域の演習である。  
論理的思考について学びながら、企業経営・経営戦略などについて書かれた文献等を理解するための演習を行う。形式としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。プレゼンテーションやグループワークなどを活用しつつ、読解力・コミュニケーション力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図り、思考力を身につけるよう指導する。

授業計画

|        |                     |        |                 |
|--------|---------------------|--------|-----------------|
| 第 1 回  | 秋期概要：経営戦略の事例を学ぶ     | 第 16 回 | 春期概要：思考力を鍛える    |
| 第 2 回  | ケース1：ストライプインターナショナル | 第 17 回 | 論理的思考：演繹法       |
| 第 3 回  | ケース2：すかいらく          | 第 18 回 | 論理的思考：帰納法       |
| 第 4 回  | ケース3：TOTO           | 第 19 回 | 論理的思考：相関関係と因果関係 |
| 第 5 回  | ケース4：幸楽苑            | 第 20 回 | 論理的思考：事象の構造化    |
| 第 6 回  | ケース5：ハイディ日高         | 第 21 回 | 文章で説明する         |
| 第 7 回  | ケース6：パーク24          | 第 22 回 | 文章で説明する         |
| 第 8 回  | ケース7：コマツ            | 第 23 回 | 図解テクニック         |
| 第 9 回  | ケース8：富士重工           | 第 24 回 | 図解テクニック         |
| 第 10 回 | ケース9：富士フィルム         | 第 25 回 | パワーポイント作成法：構造化  |
| 第 11 回 | ケース10：ヤマトホールディングス   | 第 26 回 | パワーポイント作成法：装飾   |
| 第 12 回 | ケース11：ソニー           | 第 27 回 | パワーポイント作成       |
| 第 13 回 | 企業研究①               | 第 28 回 | プレゼンテーション①      |
| 第 14 回 | 企業研究②               | 第 29 回 | プレゼンテーション②      |
| 第 15 回 | プレゼンテーション③          | 第 30 回 | プレゼンテーション③      |

第31回 筆記試験等（含むレポート）

到達目標

- ・一定の文献読解力、文章力、コミュニケーション力を身につける。
- ・企業経営について関心を持ち、経営学領域・経営戦略分野で何を学ぶべきか理解する。
- ・アイデアの発想法の基本を身につけることができる

履修上の注意

- ・授業内で指定する文献を購入する必要がある。
- ・新聞記事やネット記事を読み、その内容についてプレゼンテーションやディスカッションなどを行い、社会人基礎力を鍛える。これは就職活動にも役立つものである。

予習復習

- ・予習には、レジュメの作成と文献の事前の精読を課す。
- ・復習には、プレゼンテーション用資料の作成を課す。

評価方法

期末試験50%、レポート50%

テキスト

授業内で指定する。



授業概要

本演習は、前半では「考えることの楽しさ」や「情報を正確に読みとる力、ものごとの筋道を追う力。受け取った情報をもとに自分の論理をきちんと組み立てられる力」を身につけ、「自分の頭で考えていくことができる」やり方を学べるよう指導します。後半は、経営学研究の方法論を学び、学術研究のやり方を学んでください。卒業論文の執筆には必要な知識です。演習は、事前にテキストや論文を読み、その要約とコメントをレジュメとして毎回提出してもらいます。それをもとに全員でディスカッションをおこないます。

授業計画

|        |                |        |                        |
|--------|----------------|--------|------------------------|
| 第 1 回  | ガイダンス          | 第 16 回 | マネジメント研究と研究方法論の重要性     |
| 第 2 回  | 知的複眼思考法とは何か①   | 第 17 回 | 存在論・認識論・研究アプローチ①       |
| 第 3 回  | 知的複眼思考法とは何か②   | 第 18 回 | 存在論・認識論・研究アプローチ②       |
| 第 4 回  | 創造的読書で思考力を鍛える① | 第 19 回 | マネジメント研究・研究方法論の選択      |
| 第 5 回  | 創造的読書で思考力を鍛える② | 第 20 回 | インタビュー①：理論             |
| 第 6 回  | 考えるための作文技法①    | 第 21 回 | インタビュー②：実践             |
| 第 7 回  | 考えるための作文技法②    | 第 22 回 | 実験法と準実験法               |
| 第 8 回  | 問いの立てかたと展開の仕方① | 第 23 回 | サーベイリサーチ               |
| 第 9 回  | 問いの立てかたと展開の仕方② | 第 24 回 | エスノグラフィー①              |
| 第 10 回 | 問いの立てかたと展開の仕方③ | 第 25 回 | エスノグラフィー②              |
| 第 11 回 | 複眼思考を身につける①    | 第 26 回 | ケーススタディ①：研究方法論の再考      |
| 第 12 回 | 複眼思考を身につける②    | 第 27 回 | ケーススタディ②：ケースの選択基準と研究事例 |
| 第 13 回 | ケース①：ビジネスモデル   | 第 28 回 | 学術論文を読む①               |
| 第 14 回 | ケース②：新規事業創造    | 第 29 回 | 学術論文を読む②               |
| 第 15 回 | ケース③：ベンチャー企業   | 第 30 回 | 学術論文を読む③               |
|        |                | 第 31 回 | レポート提出                 |

到達目標

- ① 知的複眼思考法を理解できる
- ② マネジメント研究における方法論の必要性を説明できる
- ③ ケースを通じて実際の企業の経営課題等が理解できる

履修上の注意

- ①遅刻・欠席はなるべくしないでください。
- ②演習という少人数の環境なので、積極的に自分の考えを発言してください。

予習・復習

- ①予習は、テキストの次回の講義の該当箇所を読んで、レジュメ（要約とコメント）を作成してください。
- ②復習は、演習中に新たに出てきた専門用語や理論など、再度調べて理解を深めるようにしてください。

評価方法

- ①毎回提出のレジュメの内容を評価します。50%
- ②講義・ディスカッションへの参加度合を評価します。30%
- ③レポートの提出を評価します。20%

テキスト

- ・教科書名：知的複眼思考法
- ・著 者 名：荻谷 剛彦
- ・出版社名：講談社
- ・出 版 年（ISBN）：2002 年（978-4062566100）
  
- ・教科書名：マネジメント研究への招待
- ・著 者 名：須田敏子
- ・出版社名：中央経済社
- ・出 版 年（ISBN）：2019 年（978-4502296116）

## 授業概要

本演習は学生に幅広い分野に関心を持ってもらい、自分の問題意識を探る演習講座です。問題意識は、SDGs（持続可能な開発目標）との関連で探ることが大切です。SDGs に向かって社会を作っていくのは皆さん一人ひとりだからです。そのため、SDGs を解説している文献を輪読します。

本演習では、身近な人間関係で構築された世界のみならず外の問題にも関心を持ってもらうことを基調として、卒業論文作成の基礎知識が身に付くよう指導します。大学が実施するイベントなどへ積極的に参加・協力することによって、当該問題に関心を持つことを促します（大学祭に出展します）。また、文献を輪読することによって問題提起ができるようになることを促します。

外の問題にも関心を持って問題提起ができるようになると、どんな分野の専門演習を3年次に履修しても良い卒業論文を書くことができます。

## 授業計画

|      |                   |      |                    |
|------|-------------------|------|--------------------|
| 第1回  | ガイダンス             | 第16回 | 今年度春期：振り返り         |
| 第2回  | 前年度秋期：振り返り        | 第17回 | 履修計画：時間割作成         |
| 第3回  | 履修計画：時間割作成        | 第18回 | 大学祭：出展準備①          |
| 第4回  | 体育祭：紹介・参加申込       | 第19回 | 大学祭：出展準備②          |
| 第5回  | 履修登録：確認           | 第20回 | 大学祭：出展準備③          |
| 第6回  | オープンキャンパススタッフ：登録  | 第21回 | 大学祭：振り返り           |
| 第7回  | 資格取得講座：受講計画・申込    | 第22回 | 図書館ツアー②：日経バリューサーチ  |
| 第8回  | 自然体験プログラム 紹介・参加申込 | 第23回 | 図書館ツアー③：紙の新聞を読む    |
| 第9回  | 図書館ツアー①：データベース検索  | 第24回 | 自然体験プログラム：紹介・参加申込  |
| 第10回 | ウェディングケーキの図：経済①   | 第25回 | ウェディングケーキの図：経済③    |
| 第11回 | ウェディングケーキの図：経済②   | 第26回 | ウェディングケーキの図：経済④    |
| 第12回 | 大学祭：紹介・参加申込       | 第27回 | 新入生交流プログラム：紹介・参加申込 |
| 第13回 | プレゼン①：「私は～です。」×20 | 第28回 | プレゼン①：SDGs「経済」     |
| 第14回 | プレゼン②：「私は～です。」×20 | 第29回 | プレゼン②：SDGs「経済」     |
| 第15回 | プレゼン③：「私は～です。」×20 | 第30回 | プレゼン③：SDGs「経済」     |
|      | プレゼン④：「私は～です。」×20 | 第31回 | プレゼン④：SDGs「経済」     |

## 到達目標

- ・身近な人間関係で構築された世界のみならず、外の問題にも関心を持つことができる。
- ・要約および問題提起を含む報告資料を事前に作成することができる。
- ・双方向型のプレゼンテーション（活発なディスカッション）ができる。

## 履修上の注意

- ・この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行います。特別講師等を外部から招聘する場合があります。費用負担が生じる活動があります。
- ・シラバスの内容は、参加者の人数や受講学生の関心などに応じて調整・変更される場合があります。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合があります。遅刻3回で欠席1回分にカウントします。
- ・必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。

## 予習・復習

予習・復習および発展学習を兼ねて教科書をよく読むこと。

## 評価方法

発表 50%、演習などへの取り組み姿勢 50%で評価します。また、毎回出席を取ります。

## テキスト

- ・教科書名：SDGs（持続可能な開発目標）（中公新書 2604）
- ・著 者 名：蟹江憲史
- ・出版社名：中央公論新社
- ・出版年月：2020 年 8 月 ISBN：978-4-12-102604-0 本体 920 円＋税

## 授業概要

本演習は、スポーツビジネスを知り、学び、考え、実践することをテーマとして指導します。  
第一に、大学祭にてスポーツビジネスを実践することを目標にゼミ生全員と協力をしながら活動をしてもらいます。そのためには、学内外問わず現在のスポーツビジネスを知り、学ぶ必要があります。学生には何事にもアクティブに取り組むことを求めます。

## 授業計画

|        |                 |        |             |
|--------|-----------------|--------|-------------|
| 第 1 回  | 前期オリエンテーション     | 第 16 回 | 後期オリエンテーション |
| 第 2 回  | 前年度の紹介          | 第 17 回 | 大学祭出店準備⑤    |
| 第 3 回  | スポーツビジネスの事例調べ   | 第 18 回 | 大学祭出店準備⑥    |
| 第 4 回  | フィールド調査         | 第 19 回 | 大学祭出店準備⑦    |
| 第 5 回  | 調査報告            | 第 20 回 | 大学祭出店準備⑧    |
| 第 6 回  | 出展内容の決定         | 第 21 回 | 大学祭出店①      |
| 第 7 回  | 計画書の作成①         | 第 22 回 | 大学祭出店②      |
| 第 8 回  | 役割分担            | 第 23 回 | 報告書作成①      |
| 第 9 回  | 大学祭計画・準備①       | 第 24 回 | 報告書作成②      |
| 第 10 回 | 大学祭計画・準備②       | 第 25 回 | 発表          |
| 第 11 回 | 大学祭計画・準備③       | 第 26 回 | スポーツ大会      |
| 第 12 回 | 大学祭計画・準備④       | 第 27 回 | 論文・資料の探し方   |
| 第 13 回 | ※スポルテックへの参加     | 第 28 回 | 論文の書き方      |
| 第 14 回 | ※浦和レッズのボランティア参加 | 第 29 回 | プレゼン①       |
| 第 15 回 | 前期のまとめ          | 第 30 回 | プレゼン②       |

## 到達目標

本演習は、以下の 2 点を到達目標とします。

- ・基本的なスポーツマネジメント・スポーツマーケティングの知識を理解し、活用することができる。
- ・スポーツビジネスを体感し、ゼミ生同士で協力することができる。

## 履修上の注意

- ・この授業では、大学祭への出店を前提に、ゼミ生全員と協力しながら事業を進めていきます。授業を欠席するとほかの学生へ迷惑がかかるため、毎回の授業に必ず出席してください。やむを得ない場合は欠席（または遅刻）をする場合は、水野まで連絡をすること（無断欠席はしない）。
- ・学外にて活動を行うことがあります。活動にかかる費用（交通費等）は原則自己負担とします。また、学外活動は授業時間に振り替えます。スケジュール管理を怠らないでください。
- ・シラバスの内容は、参加者の人数や進捗状況に応じて調整・変更されることがあります。
- ・水野が担当している専門科目のうち、1 科目以上の単位修得をしていることが望ましい。

## 予習・復習

予習：履修しているすべての授業に出席すること。→ビジネスのヒントとなる情報を得る。  
復習：与えられた課題に取り組む。

## 評価方法

グループ活動…30 点、学外活動…30 点、成果物（レポート・報告書・大学祭）…40 点、の計 100 点満点で評価をする。

## テキスト

- ・テキストの購入はない。参考文献は必要に応じて授業内で提示する。

※スポルテック 2025 7/30（水）～8/1（金）の中の 1 日 <https://sports-st.com/>

授業概要

現代社会は様々な面で大きな変革が進展しており、新しい経済社会の姿が構築されつつあります。基礎演習では、日本経済・世界経済のトレンドを理解することによって、今後経験する就職活動や社会人として必要となる基礎的な知識を身に着けることを目的として指導します。各回のゼミでは、ゼミ生全員がテキストの指定箇所を事前に読んできて、事前に割り振られた担当の学生が報告資料を作成したうえで発表します。その内容について全員で議論する形で進めていきます。テキストの輪読以外にも、受講生は自身が気になったニュースを紹介してもらいます。このように毎回主体的な授業参加が求められます。

授業計画

|        |                       |        |                     |
|--------|-----------------------|--------|---------------------|
| 第 1 回  | ガイダンス・演習の進め方          | 第 16 回 | 新興国経済①：2024年の新興国経済  |
| 第 2 回  | グローバルリスク①：ヒトの流動化      | 第 17 回 | 新興国経済②：2025年の経済見通し  |
| 第 3 回  | グローバルリスク②：モノ・サービスの流動化 | 第 18 回 | 新興国経済③：選挙の影響        |
| 第 4 回  | グローバルリスク③：カネの流動化      | 第 19 回 | 新興国経済④：インド経済        |
| 第 5 回  | 米国経済①：利下げサイクル         | 第 20 回 | 日本経済①：日本経済のシナリオとリスク |
| 第 6 回  | 米国経済②：米国経済のリスク        | 第 21 回 | 日本経済②：円安リスク         |
| 第 7 回  | 米国経済③：大統領選挙           | 第 22 回 | 日本経済①：貿易・デジタル収支の課題  |
| 第 8 回  | 欧州経済①：欧州経済の景気         | 第 23 回 | 日本経済③：金融政策動向と短期見通し  |
| 第 9 回  | 欧州経済②：利下げサイクル・財政再建    | 第 24 回 | 日本経済④：金融政策の中長期見通し   |
| 第 10 回 | 欧州経済③：EU 新体制          | 第 25 回 | 日本経済⑤：金融政策の正常化の課題   |
| 第 11 回 | 中国経済①：3中全会・不動産不況      | 第 26 回 | 生成 AI①：労働市場への影響①    |
| 第 12 回 | 中国経済②：中国経済の短期見通し      | 第 27 回 | 生成 AI②：労働市場への影響②    |
| 第 13 回 | 中国経済③：人口減少と米中覇権争い     | 第 28 回 | 生成 AI③：労働市場への影響③    |
| 第 14 回 | 中国経済④：中国経済の中長期見通し     | 第 29 回 | 生成 AI④：キャリア形成への影響   |
| 第 15 回 | 春期のまとめ                | 第 30 回 | 秋期のまとめ              |
|        |                       | 第 31 回 | 課題レポートの提出           |

到達目標

- 日本経済・世界経済を中心とした現代社会についての基本的な考え方を理解し、課題や改善策などについて自らの意見を持つことができる。
- 報告資料を適切に作成し、プレゼンテーションを実施することができる。
- 各回で取り上げるテーマについて、自らの意見を表明して、有意義な議論ができる。

履修上の注意

- 担当部分について報告資料を事前に作成する必要がある。
- 予習、復習を行い、議論に積極的に参加すること。

予習・復習

テキストの指定された箇所を事前に読んで理解するとともに、各回のゼミ終了後に授業内容を復習してください。

評価方法

担当部分の発表 30%、各回の議論への貢献度 30%、課題レポート 40%

テキスト

- ・教科書名：『この一冊でわかる 世界経済の新常識 2025』
- ・著 者 名：熊谷亮丸（監修）・大和総研（編著）
- ・出版社名：日経 BP
- ・出 版 年（ISBN）：2024 年 11 月（978-4296002269）

授業概要

本演習は、(1) 統計学の基礎を身に着けて統計検定4級以上を取得すること、(2) 金融・商品市場の変動要因について自ら考えられる力を身に着けること、を目的として指導する。具体的な学習内容は、(1) 統計検定3級・4級公式問題集を各自が解てくる、各回の担当者がレジュメを作成のうえ解説を行い、それを受けて参加者で質疑応答を行う形式をとる。まずは、4級の問題からスタートして、後半では、専門演習に備え、3級の問題へと歩みを進める。(2) 日本、米国、インドの金融市場(株式、金利)、ドル円為替レート、金価格に関する日次の変動を EXCEL で記録したうえでグラフ化して変動要因をコメントし、参加者で討論する。

授業計画

|        |                   |        |                       |
|--------|-------------------|--------|-----------------------|
| 第 1 回  | 統計的問題解決の方法        | 第 16 回 | 時間的・空間的データ (1)、討論 1 5 |
| 第 2 回  | データの種類、討論 1       | 第 17 回 | 時間的・空間的データ (2)、討論 1 6 |
| 第 3 回  | 標本調査、討論 2         | 第 18 回 | 確率の基礎 (1)、討論 1 7      |
| 第 4 回  | 統計グラフ (1)、討論 3    | 第 19 回 | 確率の基礎 (2)、討論 1 8      |
| 第 5 回  | 統計グラフ (2)、討論 4    | 第 20 回 | データの種類・標本調査、討論 1 9    |
| 第 6 回  | 統計グラフ (3)、討論 5    | 第 21 回 | 実験、討論 2 0             |
| 第 7 回  | データの集計 (1)、討論 6   | 第 22 回 | 統計グラフ (1)、討論 2 1      |
| 第 8 回  | データの集計 (2)、討論 7   | 第 23 回 | 統計グラフ (2)、討論 2 2      |
| 第 9 回  | データの集計 (3)、討論 8   | 第 24 回 | 統計グラフ (3)、討論 2 3      |
| 第 10 回 | データの要約 (1)、討論 9   | 第 25 回 | 時系列データ (1)、討論 2 4     |
| 第 11 回 | データの要約 (2)、討論 1 0 | 第 26 回 | 時系列データ (2)、討論 2 5     |
| 第 12 回 | データの要約 (3)、討論 1 1 | 第 27 回 | 時系列データ (3)、討論 2 6     |
| 第 13 回 | データの要約 (4)、討論 1 2 | 第 28 回 | データの代表値、討論 2 7        |
| 第 14 回 | クロス集計表 (1)、討論 1 3 | 第 29 回 | データの散らばり (1)、討論 2 8   |
| 第 15 回 | クロス集計表 (2)、討論 1 4 | 第 30 回 | データの散らばり (2)、討論 2 9   |
|        |                   | 第 31 回 | 期末試験 (レポート提出)         |

到達目標

- ・統計知識は、統計検定4級の取得を到達目標とし、統計検定3級への足場を固めることができる。
- ・金融・商品市場データを日次で1年間ほど追いかけることで、マーケット感覚を身に着けることができる。
- ・発表のためのレジュメを適切に作成することができる。
- ・討論に参加して、参加者の意見を理解したうえで、自分の考えを伝えることができる。

履修上の注意

- ・毎回必ず参加して欲しい。
- ・演習は参加型授業なので、レジュメの準備、発表、質疑応答、討論を積極的に行って欲しい。
- ・日経新聞の金融市場欄に関して興味をもって欲しい。

予習・復習

- ・毎回の演習問題を予め解いてきて、ゼミ終了後は、完全に正解できるまで復習する。
- ・自らが担当した金融・商品市場に関して、討論を経て学んだことをメモのうえレポートを作成する。

評価方法

統計学のレジュメ作成、発表、質疑応答 (40%)、金融・証券市場のグラフ・コメント作成、発表、討論 (40%)、ゼミでの積極性 (20%)

テキスト

- ・教科書名：統計検定3級・4級 公式問題集 CBT 対応版
- ・著 者 名：日本統計学会編
- ・出版社名：実務教育出版
- ・出 版 年 (ISBN)：978-4-7889-2048-4 C3040

## 授業概要

この演習では「経済・経営分析のためのデータサイエンス」の入門的事項について理解するよう指導します。経済・経営分野における様々な課題を解決するには、その課題に関わる専門的知識が必要ですが、同時に、その課題に関連する多様なデータを収集し、分析し、どのような性質・法則が成り立ち、どのようなことが起きているかを理解し、それに基づく創造的判断も必要となります。このデータ収集・分析・構造理解・価値創造という一連の流れを体系化した領域がデータサイエンスと呼ばれ、日々進化しつつあります。基礎演習では、Python を使ったデータ処理の基本について指導します。

## 授業計画

|        |                    |        |               |
|--------|--------------------|--------|---------------|
| 第 1 回  | 春期ゼミオリエンテーション      | 第 16 回 | 秋期ゼミオリエンテーション |
| 第 2 回  | Python の実行環境       | 第 17 回 | 基礎的なデータ分析     |
| 第 3 回  | 経済・経営分析のデータサイエンス   | 第 18 回 | 基礎的なデータ分析の実践  |
| 第 4 回  | Python によるデータの読み込み | 第 19 回 | 基礎的なデータ分析のまとめ |
| 第 5 回  | データ作成              | 第 20 回 | 回帰分析の考え方      |
| 第 6 回  | データ作成の実践           | 第 21 回 | 単回帰分析         |
| 第 7 回  | データ作成方法のまとめ        | 第 22 回 | 重回帰分析         |
| 第 8 回  | データの利用 I（政府統計データ）  | 第 23 回 | 空間情報の活用       |
| 第 9 回  | 政府統計データを利用①        | 第 24 回 | 回帰分析のまとめ      |
| 第 10 回 | 政府統計データを利用②        | 第 25 回 | パネルデータ分析      |
| 第 11 回 | データ利用 I のまとめ       | 第 26 回 | パネルデータ分析の実践   |
| 第 12 回 | データの利用 II（LOD）     | 第 27 回 | パネルデータ分析のまとめ  |
| 第 13 回 | LOD を利用①           | 第 28 回 | 機械学習          |
| 第 14 回 | LOD を利用②           | 第 29 回 | 機械学習の実践       |
| 第 15 回 | データ利用 II のまとめ      | 第 30 回 | 機械学習のまとめ      |
|        |                    | 第 31 回 | 総合レポート提出      |

## 到達目標

- データ収集・分析・構造理解・価値創造という一連の流れを理解し、自分で簡単な分析を行うことができる。
- 資料を適切に作成し、効果的な報告や発表を実施することができる。
- 各々のテーマに対する内容を理解し、意見交換を展開することができる。

## 履修上の注意

この演習は Python でのプログラミングができる人（例：「プログラミング I・II」を履修した人、履修中である人）を対象としています。また「データサイエンス」および全学共通科目の「数学（線形代数基礎）」「数学（解析基礎）」を履修したか履修予定である必要があります。

## 予習・復習

予習は、テキストの次回の該当箇所に目をとおり、経済・経営分野における意義など理解しておいて下さい。まとめで発表する学生は、担当部分についてしっかりと事前の発表準備をしてください。復習は、演習で学んだ経済・経営分析のデータサイエンス手法と Python プログラミングについて復習してください。

## 評価方法

演習課題の取り組み状況と理解状況：30%  
レポート課題：40%（第 31 回の総合レポート以外にも数回のミニレポート課題を課します）  
まとめにおける発表内容、ディスカッションへの貢献：30%

## テキスト

- ・教科書名：Python による経済・経営分析のためのデータサイエンス～分析の基礎から因果推論まで
- ・著者名：原 泰史
- ・出版社名：東京図書
- ・出版年（ISBN）：2021 年（978-4489023507）

授業概要

銀行と証券会社を中心に日本の金融機関のビジネスモデルについて講義します。銀行は従来の預金と貸出が引き続き中心ではありますが、メガバンク等の大手銀行を中心に業務が多様化しています。また、証券会社は株式や債券の販売・引き受けと投資信託の販売だけでなく、投資銀行業務が大きな柱になってきました。金融機関はダイナミックに変化してきた部分とそうでない部分がありますが、今後は高齢化社会やAI化をはじめ大きな時代の変化が見込まれる中、全金融機関のビジネスモデルは変化を余儀なくされるはずです。金融機関の現在までの変化に対する理解を深めて、今後のあり方を模索します。

授業計画

|        |               |        |              |
|--------|---------------|--------|--------------|
| 第 1 回  | オリエンテーション     | 第 16 回 | 大手証券会社について 1 |
| 第 2 回  | 金融機関の分類と特徴 1  | 第 17 回 | 大手証券会社について 2 |
| 第 3 回  | 金融機関の分類と特徴 2  | 第 18 回 | 大手証券会社について 3 |
| 第 4 回  | 金融機関の戦後の経緯 1  | 第 19 回 | 大手証券会社について 4 |
| 第 5 回  | 金融機関の戦後の経緯 2  | 第 20 回 | 大手証券会社について 5 |
| 第 6 回  | メガバンクについて 1   | 第 21 回 | 準大手証券会社について  |
| 第 7 回  | メガバンクについて 2   | 第 22 回 | 地場証券会社について   |
| 第 8 回  | メガバンクについて 3   | 第 23 回 | 資産運用会社について 1 |
| 第 9 回  | メガバンクについて 4   | 第 24 回 | 資産運用会社について 2 |
| 第 10 回 | メガバンクについて 5   | 第 25 回 | 損害保険会社について 1 |
| 第 11 回 | 地域金融機関について 1  | 第 26 回 | 損害保険会社について 2 |
| 第 12 回 | 地域金融機関について 2  | 第 27 回 | 生命保険会社について 1 |
| 第 13 回 | 地域金融機関について 3  | 第 28 回 | 生命保険会社について 2 |
| 第 14 回 | 政府系金融機関について 1 | 第 29 回 | 金融持ち株会社化について |
| 第 15 回 | 政府系金融機関について 2 | 第 30 回 | 海外の金融機関について  |
|        |               | 第 31 回 | 期末試験         |

到達目標

- ・経済や企業活動の核とも言える金融機関の現状とこれまでの経緯を理解することができる。
- ・金融機関の今後の経営環境変化への対応を予見することによって、企業のビジネスモデルのダイナミックな変容を理解するプロセスを習得できる。
- ・議論の要点をまとめることができる。

履修上の注意

- ・各金融機関（持ち株会社になっている場合が多い）のホームページで統合報告書・ディスクロージャー誌をダウンロードして、各金融機関がどのようなビジネスに取り組んでいるかを概観していただきたい。
- ・毎回の演習の前半において、前演習時に出した課題の議論（ショートプレゼンの場合もある）をおこないます。課題として、ショートプレゼンの準備の場合もあります。各自、議論の簡潔なまとめを前半最後に取りまとめ、課題を提出してもらいます。演習の後半において、次の内容を講義して課題を与えます。
- ・積極的な発言による議論への参加が重要です。

予習・復習

課題回答が演習の前提となりますので、必ず完成させて次回演習に臨んでください。

評価方法

課題への取り組みと授業への参加姿勢が 70%、期末試験が 30%とします。

テキスト

資料は当方で用意します。

授業概要

この授業は、ICT（情報通信技術）の基礎的な技術を学ぶ授業です。  
特に画像処理技術を中心にデジタル画像の基礎、色の基礎、画像の2値化や細線化などの画像処理の基礎技術、画像の圧縮技術、画像の認識技術などの基礎的な技術、ホームページ(HP)の仕組み・作成と検索技術について指導します。  
終盤には、人工知能（AI）技術を使ったデータサイエンスの基礎や最近の生成 AI 技術を利用した基礎技術を学びます。  
コンピュータの基礎技術や情報通信技術を学び、企業や社会でどのような ICT 技術が使われているかの事例を学び、3 年の専門演習への繋ぎとして、人工知能（AI）、IoT（Internet of Things）や生成 AI 技術についても紹介します。

授業計画

|        |                    |        |                      |
|--------|--------------------|--------|----------------------|
| 第 1 回  | オリエンテーション：ICT 技術とは | 第 16 回 | グループで HP のテーマを設定     |
| 第 2 回  | 情報通信技術、情報システムの紹介   | 第 17 回 | お店を取材し、素材を集める        |
| 第 3 回  | デジタルとアナログ          | 第 18 回 | HP 作成技術：Javascript   |
| 第 4 回  | デジタル画像の単位、画像の種類    | 第 19 回 | HP 作成技術：CSS          |
| 第 5 回  | 色の基礎技術             | 第 20 回 | グループ内で担当する HP のページ決め |
| 第 6 回  | 画像の前処理技術：強調、エッジ検出  | 第 21 回 | 担当個人 HP の作成 1        |
| 第 7 回  | 画像の前処理技術：細線化、2 値化  | 第 22 回 | 担当個人 HP の作成 2        |
| 第 8 回  | 画像の前処理技術：ヒストグラム    | 第 23 回 | 個人 HP を結合し、結合試験実施    |
| 第 9 回  | 画像の加工技術：画像圧縮技術     | 第 24 回 | グループ HP の成果発表会       |
| 第 10 回 | 自分の写真を画像処理         | 第 25 回 | AI、人工知能とは            |
| 第 11 回 | ホームページ（HP）のしくみ     | 第 26 回 | 生成 AI がもたらす社会変革      |
| 第 12 回 | HP の自己紹介ページを設計     | 第 27 回 | AI の活用事例             |
| 第 13 回 | HP の自己紹介ページを作成 1   | 第 28 回 | ChatGPT の体験演習        |
| 第 14 回 | HP の自己紹介ページを作成 2   | 第 29 回 | Google Gemini の体験演習  |
| 第 15 回 | 作成した自己紹介 HP の発表    | 第 30 回 | まとめ                  |
|        |                    |        |                      |

到達目標

- (1)ICT (情報通信技術) を学ぶ上で必要な基礎技術の知識を習得できる。
- (2)本やインターネットを活用して必要な知識を習得する方法を身に付けることができる。
- (3)少人数によるグループによる協働作業とプレゼンテーションの方法を身に付けることができる。

履修上の注意

前半は座学を中心に ICT の基礎技術を学びます。中盤から後半は、演習作業を行いますので、PC もしくはノート PC を使用します。  
※シラバスはクラスの状態、講義の進行状況によって変更することがありますので、予めご理解下さい。

予習・復習

各授業の内容についてインターネットや本を基に予習・復習してください。

評価方法

授業への取り組み(30%)、学習ポートフォリオ(30%)、ゼミ発表（30%）で評価します。

テキスト

オリエンテーション時に指定します。